

第56回総会を開催

最高裁判事を務めた弁護士、山浦善樹氏講演
室内楽班の弦楽の調べ楽しむ

関東同窓会は6月24日（土）、東京都千代田区一ツ橋の如水会館で第56回総会を開いた。母校や同窓会本部、関西同窓会、中南信支部の来賓も合わせてこれまでで最多となる317人が出席した。

▽山浦善樹氏が講演

第1部の講演会では、弁護士出身で2012年から16年7月まで4年半、最高裁判所判事を務めた山浦善樹氏（63期）が「最高裁判事になったマチ弁が思うこと」と題して、日本の法曹界の最高機関での仕事や、市井の法曹人としての筋の通った生き方を話した。

丸子町出身の山浦さんは、人見知りでおとなしい中学生だったが、上田高校に入学して新聞班で活動、国際問題や社会への関心を深め、立候補して生徒会長を務め、社会科学の殿堂で学びたいと一橋大学法学部に進学。世界中で若者のベトナム戦争反対運動が高まる中で反戦平和運動にも参加、三菱銀行に就職したが「肌が合わず」に1年で退社し、高校の同級生だった夫人に支えてもらいながら独学で司法試験に合格した。法律事務所で企業法務や倒産などを手がけた後、「マチ弁」に転じ、法的な武器を持たない中小企業や市民の利益を守る弁護士として約30年活躍。最高裁判事に立候補し東京弁護士会・日弁連の推薦を得て就任したいきさつを紹介した。

最高裁判事として4年半の任期中に民事・刑事合わせて14,000件を担当、普通預金の遺産分割に関する大法廷判決の判例変更を実現させるなどの実績を、「砂の中から砂金を探し出した」ことに例えて披露するなど、約40分間にわたり講演した。

山浦氏は、自称「お気の毒な弁護士“small-time lawyer”」が、司法の最高機関の裁判官になったとユーモアを交えて振り返り、無医村の医師だった岳父の姿を通して、自身を必要とする人のために知識や技能を役立てる人生の意義深さを学んだこと、高校の新聞班の活動で社会への目を広げたことを原点に自分の生き方を実現してきたことを、20余のエピソードにして、飾ることなく語った。弁護士として印象に残る仕事に、戦前に若い学生が通った老朽ビリヤード店を戦後に客足が落ち込んでも経営し続ける老女が立ち退きを迫られた不動産売却訴訟で、依頼者の心情に寄り添う形により異例の「和解」により解決をしたことに挙げた。

最高裁判事の仕事や、裁判は結論を出すまで締め切りなしで審理を尽くす原則など、日本の司法制度の長所を誇りを込めて語り、笑顔を絶やさず人柄のにじむ語り口に大きな拍手が送られた。



▽2017年度の会務計画や予算及び新役員の選出案などを承認

続いて開いた総会では、高梨奉男会長が「300人を超える参加者は過去最高のことで大変ありがたいことです。44期から105期まで幅の広い人が顔を揃えるというのはそう滅多にあることではない。本年度は基金活用として、会費の納入促進キャンペーンに取り組み、通信費に活用した結果、71人に新たに納入してもらい、また同期会の結成も支援した結果、70期などいくつかの期で結成されるなど成果があった。5つの委員会もなんとか定着してきたかと思っている。次の執行部に引き継ぎたいと思う」とあいさつした。

議事では会務報告、決算報告のほか、母校室内楽班の招聘(へい)に交通費など基金の活用などの活動のほか、IT推進委、若手会員対策実行委、学生会員の社会デビュー支援活動委、学生交流委、女性活動交流推進委の委員会の活動な計画と予算案が承認された。

上原新会長が「会報を見返し見ると、支部を通じて19代目の会長となる。今回は過去最高の310人を集めた幹事の70期は5年前に9人しか集まらなかったが今回は52人が集まり記録的な成果を出してくれた。同窓会はゴールのない駅伝のたすきをつなぐことに似ている。総会を通じてさらにたすきをつなぐことになる。私は団塊世代だが、われわれが若い世代と一緒に今執行部として頑張っていきたい」と就任のあいさつをし、懇親会に移った。



▽重厚な弦楽の演奏楽しむ

第3部の懇親会は隣のスターホールに会場を移し、母校の室内楽班30人による弦楽の演奏を楽しんだ。指揮は顧問の柳澤哲先生。生徒の代表が合間に曲の解説や弦楽奏について軽妙な説明を交えながら、7月の全国大会に出場するため、練習が追い込みに入っていることなどを紹介。OGでプロの塩野入清美さん(85期)のや105期の寺島志織さんも加わった特別編成により、ヘンデルの歌劇「ジュリアス・シーザー」序曲と「アリア」、クライスラーの「愛の悲しみ」、ホルストの「セントポール組曲 第1・4楽章」など6曲を、鍛え上げられたアンサンブルで披露、重厚なハーモニーを響かせた。4曲目に「みなさまお待ちかねの、あの曲」として会場の期待を高める中、テレビ時代劇「水戸黄門」のテーマ曲を演奏して笑いを誘ったあと、NHK大河ドラマ「真田丸」のテーマ曲を演奏し、会場を大いに盛り上げた。最後は演奏に合わせて全員が校歌を歌った。



ステージでは内堀繁利校長が部班活動の状況や2年目を迎えたSGH活動などを紹介。本部同窓会の金子元昭理事長の音頭で乾杯した後、期ごとにテーブルに別れ料理や飲み物を楽しみながら懇談した。

来年の実行委員期の筆頭幹事の小林清隆さん（71期）が「来年も今年に負けない同窓生を集め、盛大な総会を成功させたい」と決意を込めてあいさつ。大きな拍手を浴びた。

◇写真説明

- 1 最高裁判事の仕事やマチ弁の矜持をユーモアも交えて講演する山浦善樹氏（63）
- 2 総会で19代目の上田高校関東同窓会の会長に選ばれ、新任のあいさつをする上原昇会長
- 3、4 懇親会では母校室内楽班が「真田丸」のテーマなどを演奏し盛り上げた

